



聖アンデレ教会 教会報

さかえ

第 389 号

日本聖公会東京教区 聖アンデレ教会
〒105-0011 東京都港区芝公園3-6-18
TEL 03-3431-2822 FAX 03-3434-5698
www.st-andrew-tokyo.com

発行人：牧師 司祭ステパン・卓志雄
編集人：リチャード・倉辻明男
セバスティアーノ・林圭佑
ガブリエル・新井悠

「負け組に宿る光 – クリスマスが示す逆転の希望」

牧師 司祭 ステパノ 卓 志雄

さるにヘロデ王の幼児殺害の命令から逃れるため、二人はエジプトに落ち延び難民として暮らすことになる。この困難を乗り越えられたのは、神の声に耳を傾け、従い続けたからである。

天使が最初に訪れた羊飼いたちも、社会の最下層に属していた。美しく描かれることが多い羊飼いだが、実際の彼らの仕事は「きつい・汚い・危険」で、天候に左右される過酷な生活だった。安息日にも働かざるをえず、律法を守れない者として軽視され、神殿で償う機会もないまま「罪びと」と見なされた。不潔で教養がないとされた裁判の証人にもなれなかつた。

「マリア」「ヨセフ」「羊飼い」「東方の博士」・・・、クリスマス物語を彩るこれらの人物は、実は当時の社会から「負け組（Loser）」と見なされていた人々であつた。ローマ皇帝アウグストゥスやユダヤの宗教指導者のような権力者ではなく、弱く取るに足りない者たちこそが、神によつて救いの物語の中に置かれたのである。

名もない少女だつたマリアは、神の言葉に謙虚に従いメシア誕生の主役となつた。しかし、婚約直後に身ごもつたことで周囲から罪びと扱いを受けただろう。婚約者ヨセフは貧しい大工で、名譽も地位もない男性であった。それでもヨセフはマリアを拒むことなく、共にベツレヘムへ赴き助けてくれた。

福音とは「すべての民に与えられる大きな喜びの知らせ」である。しかし、自らを「勝ち組」と思い上がる人々は神の声を聞き取りにくい。多くを持つゆえに神を必要とせず、心が閉ざされてしまうことがある。一方で、この世で疎外され、低くされた人々の心は開かれており、神の慰めと喜びを受け入れる備えが整っている。

イエス・キリストのご降誕の核心は、この「へりくだる心」にある。幼子イエスの前にひざまずくとき、初めて真の喜びと平和が与えられる。神は「負け組」と呼ばれた人々を用いて救いの業を進められ、今もまた、へりくだつた心で神に近づく者

しかし、失うものがない彼らは心が低くされ、誰よりも早く神の声を聞くことができた。羊飼いたちは急いでベツレヘムへ行き、幼子イエスを礼拝し、喜びを告げ知らせた。

さらに東方の博士たちは「三人の王」と誤解されがちだが、実際には異教の占星術師であり、ユダヤ社会では不浄とされた人々であった。それにもかかわらず、星の動きに神のしるしを読み取り、長い旅をいとわず幼子イエスを探し出して礼拝した。この出来事は、神の救いが特定の民族や階層に限定されるものではなく、世の基準では取るに足りないとされる者にも等しく開かれていることを示している

期）教区会を経て、東京教区と北関東教区が「東日本教区」として新たな歩みを始めようとしている今、この節目に「負け組に宿る光」クリスマスが示す逆転の希望」に思いを巡らしていただきたい。これから的新たな宣教の道を、共に歩んでいくために。

を喜んで受け入れてくださる。二千年前、イエスは馬小屋という最も低い場所にお生まれになつた。涙と悲しみ、苦しみのただ中に来られたお方である。そして今も、社会の片隅にいる人々の間に来てくださり、涙をぬぐい、癒しと力を与えてくださる。

クリスマスとは、神が弱く小さくされた者に寄り添われる出来事を思い起す時である。私たちもまた、自らの弱さを神の前に差し出すとき、幼子イエスがもたらす平和と喜びにあづかる。降誕の光は、へりくだつた心をもつて神に向かうすべての人々に今も注がれている。

教会の諸活動報告

自然と歴史と教会がくれた特別な時間

テレサ田知殷（ジョン・ジウン）

小笠原の旅二〇二五では、澄んだ海と山と空に囲まれた自然の中過ごした五日間は、小笠原の複雑な歴史を感じられるような時間になりました。特に砲台の残る遺跡では、澄んだ美しい夕日を眺めながら、かつてこの空に向けて大砲を撃たなければならなかつた人々の思いを想像し、複雑な感情を覚えました。五回目の参加や小笠原聖ジョージ教会の信徒の皆さんとの交わりを通して、自然と人との信仰が結びついた共同体の温かさを実感しました。さらに聖ジョージ教会での洗礼式では当日の朝に仲間と一緒に貝殻と海水を集め、準備の大段階から関わることができたことが大きな恵みとなりました。旅の中で、移動の船内や宿での分かれ合いの時間も多く与えられ、一人ひとりが小笠原で受け取った気づきや課題を語り合い、来年以降のプログラムの改善点や、自分たちが次の世代にどのように経験を手渡していくかについても話し合うことができました。今回初めてスタッフとして参加したこと、参加者の安全管理や時間調整、プログラム全体の流れを意識しながら動く難しさとやりがいも学びました。受け身ではなく、自分が、国は違えど他国の青年と共に安心を覚えた。青年との会話から、歩みを急がせるのではなく、互いの背景や痛み、喜びに目を向けて、共に考え方を変えて感じた。他国の青年との交わりを経て、自身の信仰についてもこの旅を形づくる一員として責任を担うことで、信仰や教会とのつながりを以前よりも身近なものとして受け止めるようになりました。これらの経験を与えてくださつたすべての支援に対しまして、心より深く感謝申し上げます。

CCEA（東アジア教会協議会）アジア青年大会では、各国の青年と信仰や生活について語り合い、アングリカン・コミュニオンのつながりと、それぞれの置かれた環境の違いを強く実感した。特に、軍事クーデター後の不安定な状況にあるミャンマーの青年から、教会に通うことさえ命の危険を伴う現実を聞き、信仰の自由が当然ではないこと、自身の日々の生活における視野の狭さを感じた。また、各国の青年たちとの交わりを通して自らの信仰の在り方を模索し、聖公会の仲間との出会いを通じて自身の信仰の在り方を見いだした経験を分かち合つた。私自身も「なぜ教会に通うのか」と問い合わせた時期があり、信仰に対する問いが、国は違えど他国の青年と共に安心を覚えた。青年との会話から、歩みを急がせるのではなく、互いの背景や痛み、喜びに目を向けて、共に考え方を変えて感じた。他国の青年との交わりを経て、自身の信仰についてもこの旅を形づくる一員として責任を担うことで、信仰や教会とのつながりを以前よりも身近なものとして受け止めるようになりました。これらの経験を与えてくださつたすべての支援に対しまして、心より深く感謝申し上げます。



交わりが形作る信仰

洗礼者聖ヨハネ 卓由真

CCEA（東アジア教会協議会）

アシア青年大会では、各国の青年と一緒に、それぞれの置かれた環境の違いを強く実感した。特に、軍事クーデター後の不安定な状況にあるミャンマーの青年から、教会に通うことさえ命の危険を伴う現実を聞き、信仰の自由が当然ではないこと、自身の日々の生活における視野の狭さを感じた。また、各国の青年たちとの交わりを通して自らの信仰の在り方を模索し、聖公会の仲間との出会いを通じて自身の信仰の在り方を見いだした経験を分かち合つた。私自身も「なぜ教会に通うのか」と問い合わせた時期があり、信仰に対する問いが、国は違えど他国の青年と共に安心を覚えた。青年との会話から、歩みを急がせるのではなく、互いの背景や痛み、喜びに目を向けて、共に考え方を変えて感じた。他国の青年との交わりを経て、自身の信仰についてもこの旅を形づくる一員として責任を担うことで、信仰や教会とのつながりを以前よりも身近なものとして受け止めるようになりました。これらの経験を与えてくださつたすべての支援に対しまして、心より深く感謝申し上げます。



中高生キャンプに参加して

バプテスマのヨハネ篠田蓮

ぼくは、八月十八日から八月二十一日まで長野県シャロームで開催された、中高生キャンプ参加させて頂きました。今年のテーマは「なぜここにいる?」でした。それについても話しました。当曰は多くの方々から祝福され、

CCCEAでは、他国の聖公会の現況について学び、教区や日本聖公会の牧師の荻原先生、遊び、食事を作つたりし



洗礼・堅信 振返れば・・・

ヨナ前澤弘之

十一月十六日、午前の聖餐式で洗礼、夕の礼拝で堅信を受けました。思い起こせば小学校入学を機に子どもたちの礼拝に出席する娘の付き添いで教会に通い始め、多忙を理由に次第に足の遠のく娘を尻目に、教会の行事にせつせと参加するオヤジと化しましたが、振返れば二十年が経過していました。（決して苦節・・ではあります）。いざれは洗礼をと考えていましたが、「いざれ」というのは今までいきたいと思ひます。

来年も仲間に会いたいに参加したいと思います。

夜はキヤンプファイヤーを囲んで、歌ったりゲームをしたり、マシュマロを焼いて楽しみました。

感謝以外の言葉が見つかりません。皆さまありがとうございます。これからも今までと変わりなく、またこれまで以上の交わりをお願いいたします。

バザーはチームワーク

クリスティーヌ青木かずこ

まずは、今年のバザーも多くのお客様をお迎えし無事に終了したことに感謝して、皆さまに御礼を申し上げます。ありがとうございました。



昨日のバザーの課題は、人手不足と献品の減少だと言われています。確かに、人手も足りないし、高齢化も進んでいます。献品の数も減っていますが、それでもバザー当日には多くの方々が手伝ってくださり、(恐縮ですが)他の教会の何倍も売り上げがあります。

G S の皆さん、その保護者の方々の底力とチームワークの良さです。それは、アンデレの皆さん、B S ・ G S の皆さん、その保護者の方々の底力とチームワークの良さです。長年培われた教会での信頼やノウハウが存分に活かされているのがバザーだと想いります。もし人手が足りないなら、足りないよう、献品が少なければ少ないを楽しみましょう。そうした柔軟な対応ができるのも、皆さんのチームワークのおかげです。

毎年、アンデレバザーを楽しみにして、朝早くから並んでくださる方がいらっしゃる限り、私たちは新しいアイデアや試みを恐れず、果敢に挑戦していきましょう。私たちには、聖アンデレ教会という名監督と名コチの卓司祭がおられるのですから。



ベストリークリーンデイ実施

八月三十一日、私

たちの教会では「ベ

ストリー(聖具室)

大掃除」を行いました。

なんと〇〇年間、一度も手をつけていなかつた引き出しの中からは、祭服や聖具がぞろぞろ! ！



朝のファミリー礼拝では、子どもたちの明るい歌声とともに神さまへの感謝をささげました。礼拝後のランチタイムには、食担当ボランティアによる炊き込みご飯がふるまわれ、心のこもった味に皆が笑顔に。しかし、ブルを心待ちにしていた子どもたちは、すでにそわそわしていました。

午後は、子どもたちがブールや水風船、スイカ割りを思いきり楽しむ一方で、大人たちは三味線の調べに乗つて登場した晴留家志んぶさんによる人情嘶の落語に耳を傾けました。

最後は全員でbingo大会を楽しみ、コンテンポラリー奏楽チームによる歌の集いで会場が一つになりました。猛暑の中、熱中症も怪我もなく無事に終えられた事を神さまに感謝するとともに、準備に尽力くださった実行委員とボランティアの皆さんに心より感謝いたします。

「夏のディキャンプ」のご報告

トマス牧野兼三

八月三十日(土)、聖アンデレ教会で夏のディキャンプが開催されました。大人四十五名、子ども十六名の計六十一名が参加し、笑顔と笑い声にあふれる一日となりました。

敬老の日を祝う

「長寿を祝う感謝の集い」九月二十日に行われました。お祝いのカードと「握る十字架」をプレゼントとしてお渡し。

そして、近藤千晶さんによる津軽三味線の演奏と歌もあり、その美しい音色と歌声に心が癒されました。

によるご奉仕がありました。初めての野外礼拝となりましたが、新しいリズムにのせた祈りの時が、観光で訪れた方々のまわりにもやさしく広がっていました。

コンテンポラリー奏楽チームと共に、「コンテンポラリー奏楽チーム」と行なった。「コンテンポラリー奏楽チーム」が行なった。



墓地礼拝

二〇二五年十一月一日、青山墓地に

おいて、墓地礼拝をおささげしました。聖アンデレ教会では、この一年間(二〇二四年の諸聖徒日から本日まで)に、信徒十五名、教友三名、あわせて十八名の方が神さまのもとに召されました。私たちは、その姿やお顔、言葉を胸に深く刻まれた方々のために祈りをささげました。



各種お知らせ

障関連の働きについて

ベニヤミン 鵜飼良機

「障関連」というのは略さずに言えば日本聖公会東京教区「障がい者」関連活動連絡会ということになります。

詳しく述べは行事ごとに各教会にお送りしているご案内または障関連HPをご参照ください。



障関連HP QRコード



「誰を選ぶ？」を考えることになるのでは……。教会は一つの家族です。ですから教会委員は様々な考え方や意見をお持ちの方々で、老若男女で構成されるのが理想的。多様性という言葉がもてはやされていますが、委員経験豊富な男女のベテランさん、そして若い年代の男女のフレッシュマン委員などで組織されるのが理想的な姿です。この方なら、あの方なら お任せできそう……と思われる方々を見極めて投票をお願いします。詳しくは、公示の内容をご確認ください。

「障関連」の前身は日高執事がリーダーであった東京教区の「障がい者プロジェクト」であります。本年三月二十日、教区会聖餐式に引き続いて聖アンデレ主教座聖堂で行われた『「合理的配慮の提供」と教会の役割を学ぶ』という講演会は講師の大石忠様が聖公会における「合理的配慮の提供」はどの様になつていますか、どういう質問を「章

「章関連」の庄な行事は例年七月
がついで、質問を一隣
関連」に寄せられた事を契機として
行われたものです。

初旬に行われる「お話を聞く会」
今年は東京パラリンピックマラソン
銅メダルの堀越信司氏に『結果を追
い求めて、信念を貫く』ことと
『』というお話を聴きました。十月
スポーツの日に掛かる連休に「ふれ
あいキャンプ」今年も井の頭公園近
くのナザレの家で行われました。
外濠教会グループと共に「みんな
でつくるクリスマスパーティー」今
年は十二月六日・日曜聖公会で行わ
れました。

前記三行事の他にも東京教区で行われた合同礼拝、NCC「障害者」と教会問題委員会（委員長日高馨輔執事）主催の「障がい者週間」の集いに点字資料の作成をしました。その他にも各種行事に手話通訳者の派遣、要約筆記グループによるプロジェクター投影をおこなつております。

から十二月二十一日（日）正午までです。この選挙は、日本聖公会法規（第一〇九条～第一一四条、第一五〇条～第一五六条）および聖アンデレ教会選挙実施規定に基づいて実施されます。日本聖公会の法規により選挙権は、当教会に教籍があり、堅信を受けている十六歳以上の方で、過去一年以内に二回以上陪餐された方に、被選挙権は、選挙権を持つ二十歳以上の信徒に与えられています。教会は牧師さん一人で成り立つているではありません。信徒全員とその中から選ばれた信徒代表となるのです。教会委員や信徒代議員の選挙については、このことを再認識する良いチャンスではないでしょうか。

教会委員、教区代議員の選挙 による

【一一〇一五年】十一月二一日（日）降臨節第4主日

七時三〇分
十時三〇分
十三時三〇分
聖餐式
聖餐式
クリスマス子ども
(パジエント、祝会)
礼拝

十二月二十四日（水）降誕日前夕

聖書日課の礼拝

十二月二十五日（木）降誕日
七時三〇分 降誕日第二聖餐式
十時三〇分 降誕日第三聖餐式

【一〇六年】

一月一日(木)主イエスの命名の日
七時三〇分 聖餐式
十時三〇分 聖餐式

一月四日(日) 降誕後第二主日
九時十五分 子どもとともに

モモケイ

「誰を選ぶ?」を考えることになるのでは……。まことに、このままでは、

十時三〇分 聖餐式
一月六日 (火) 顯現日
七時三〇分 聖餐式

コイノニア